

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 松ヶ江北 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率とほぼ同程度であった。無解答はほとんどなく、あきらめずに答えようとする態度がみられる。 ・文章を、「読むこと」が苦手な傾向を示している。
	よくできた問題	漢字を読む問題や、漢字を書く問題
	努力が必要な問題	登場人物の心情について、情景描写を基に捉える問題
国語B	全体的な傾向や特徴など	・「書くこと」、「読むこと」において全国平均正答率を上回った。 ・「話すこと・聞くこと」において、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることが苦手であるなど、全国平均正答率を下回った。
	よくできた問題	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題
	努力が必要な問題	話し合いの参加者として、質問の意図を捉える問題
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回った。無解答はほとんどなく、あきらめずに答えようとする態度がみられる。 ・除法で表すことができる二つの数量の関係の理解など、「数と計算」が苦手な傾向を示している。
	よくできた問題	小数の除法の意味について理解する問題や、示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現する問題
	努力が必要な問題	1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表す問題
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全領域において全国平均正答率を下回った。 ・短答式、記述式の問題を中心に、無解答が見られる。
	よくできた問題	折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断する問題
	努力が必要な問題	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだす問題
理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率とほぼ同程度であった。無解答はほとんどなく、あきらめずに答えようとする態度がみられる。 ・「生命」「地球」といったB区分の問題が苦手で、全国平均正答率を下回った。
	よくできた問題	・流されてきた土や石を積もらせる水の働きについて、科学的な言葉や概念を理解する問題
	努力が必要な問題	・安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想する問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・家で、自分で計画を立てて勉強している児童が多く、全員が、学校の宿題を家で行っている。また、家で授業の予習、復習を行っている児童も多い。学習時間も国や県の水準より長い児童が多く、読書時間も長い。 ・総合的な学習の時間などを通して、地域について学んだり、地域の人とふれ合ったりする活動をした児童が多い。また、地域の行事にも積極的に参加している児童が多く、地域の方に勉強やスポーツを学んでいる児童も多い。さらに、ほとんどの児童が地域のボランティア活動に参加している。 ・理科の学習が好きな児童が多く、すべての児童が自然の中で遊んだり、自然観察を行っている。算数や理科で、学習したことを普段の生活に活用できないか考えている児童も多く、社会に出たときに役に立つと答えている児童も多いが、理科や科学技術に関する仕事に就きたいという児童は少ない。 ・自分にはよいところがあると答える児童や、将来の夢や希望をもって、と答えた児童の割合が少ない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

本校は小規模校であり、様々な配慮を必要とする児童がいるので、一人一人の児童をしっかり見取り、学習を進めていくよう、全校で共通理解を図る。また、少人数指導や専科指導などの積極的な活用を図り、学力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

早寝早起き朝ごはんなど、家庭での過ごし方に課題がある児童もいるので、学級懇談会や個人懇談会などを通して家庭との連携を強化していく。